

学校現場における体験活動・ボランティア活動等

取組名称：	子ども学実践演習Ⅰ（幼児期）（1年後期、2単位）
連携先の調整方法：	4人の教員のオムニバスで半期（15回）の授業を展開する。西九州大学附属三光幼稚園と連絡調整を図りながら、計画的な授業観察やフィールドワークを行う、
具体的な内容：	幼稚園現場での観察やフィールドワークを展開することにより、子どもの観察力、保育内容の開発力、保育活動への省察力など、高度な実践的指導力を養うことを目的とする。最初の回において、この演習の意義や意味を確認するとともに、子どもの遊びや活動に関する観察方法や、幼児期に身につけたい「学びに向かう力」についての基礎的知見を教授する。その後、幼稚園における教育活動全体の組み立て、音楽と造形を通しての表現活動、配慮を必要とする子どもや保護者への支援等、これからの幼稚園教諭に求められる専門的な実践力について個別的に検討する。これらを踏まえ、終わりの2回では、フィールドワーク全体の振り返りを行うとともに、実践活動に関する学生の研究発表で締めくくる。

教職指導の状況

○子ども学専攻における教職指導 入学時のオリエンテーションにおいて、幼稚園教諭一種免許状、小学校教諭一種免許状を保持する入学者に対し、子ども学専攻で取得できる専修免許状の概要について説明を行う。その際に、教員養成をめぐるわが国の動向や学校現場の状況について具体的に説明し、今後修士レベルへの引き上げがめざされていることを述べて、専修免許状取得の意義を理解させる。次いで、子ども学専攻の履修モデルを説明し、小学校専修免許状の取得をめざす学生は、「小学校教育指向型」のモデルを、幼稚園専修免許状の取得をめざす学生は「幼稚園教育指向型」のモデルを参考に、履修科目を選択するよう指導する。また、大学院終了後に小学校への就職を希望する学生に対しては個別の相談に応じ、教員採用試験受験を視野に含めて二年間の継続的な指導を行う。幼稚園への就職を希望する学生に対しても、同様に就職相談や指導を実施する。
